

平成 19 年 11 月 30 日

京都府立大学農学部

附属農場報告

ブドウやカキ栽培法 准教授がアドバイス

精華の府立大農場で講座

府民向けの「家庭果樹の楽しみ方」講座が、29日、精華町北福八間の京都府立大農学部附属農場で開かれ、山城地域や京都市から26人が参加した。カキやブドウ、イチジクなど家庭で育てられる果樹の世話について学んだ。

普段は研究や実習の場である農場を府民に親しんでもらおうと、毎年夏と秋に公開講座を開催。果樹が専門の中野幹夫、本杉日野の両府立大准教授が講師を務めた。

農場に植えられているブドウやキウイ、イチジク、ナシなどの果樹を実際に見ながら、種類に応じた剪定の方法や時期を指導。隔年で豊作と不作があるといわれるカキについて、中野准教授が「実



イチジクなど果樹の世話の仕方を府立大の教員（左手前）から学ぶ参加者たち（精華町北福八間・京都府立大農学部附属農場）

がなりすぎて養分がとられ、翌年の花芽が減っているだけ。早めに摘果すれば毎年、なります」などと話すと、参加者は熱心に聞いていた。

また、本杉准教授が、農場内にある約80品種のカキを紹介しながら、洗みの仕組みを説明。カキを収穫して、干し柿にする実習も行った。（石崎立矢）

ブドウやカキ栽培法 准教授がアドバイス 京都新聞山城ワイド版（11月30日）の記事から転載

11月29日木曜日に京都府立大学農学部附属農場において、一日農業体験講座「ユースカルチャーデー」（一般の部）を開催しました。本年は「家庭果樹の楽しみ方」というテーマに、20代から70歳代までの京都市および農場周辺市町の方、26名が参加されました。午前中は「果樹の花芽の付き方と剪定法」について中野准教授が、午後は「カキの甘渋性と渋抜き法」について本杉准教授がそれぞれ農場果樹園の実物を用いた講義と、体験実習を行いました。その様子については写真のように京都新聞山城ワイド版に詳しく紹介されました。